

155 だるま (2023 年 4 月 6 日)

フランスで日本食を提供するレストランでは、日本的な雰囲気演出するものが飾られていることがあります。それらを目にしたことはあるけど、何だかよく知らないということがないでしょうか。そのような日本食レストランの演出に一役買っているものをご紹介します。

今回取り上げるのは、だるまです。パリのラーメン店の横を通ったとき、ガラス越しにカラフルなだるまの姿が目に入りました。青色やオレンジ色のだるまもありました。だるまとは、縁起物とされる置物です。インドから中国へ仏教を伝えた僧侶の達磨が、壁に向かって九年の座禅を行ったことで手足が腐ったという伝説から、手足のない姿になっています。達磨大師の教えが中国から日本に伝えられ、江戸時代(1603-1868)には、願い事を助けてくれる縁起物の置物として飾られるようになりました。このレストランにあるだるまの顔の両脇には金色の文字で「大願成就」、「家内安全」、お腹には「福入」と書かれています。他の言葉が書かれることもあります。何かしらの願い事が書かれます。しかし、これらのだるまは、何かが足りなくないでしょうか。



実は、だるまには目が入っていません。願い事をするときに、まず片目を黒く書き込みます。そして、願いがかなったらもう一方の目も書き入れます。両眼が入ると、右の写真のようになります。そして、赤色には魔除けの効果があると考えられていたことから、伝統的なだるまは赤色をしています。最近では赤色以外のカラフルなだるまが作られるようになりました。日本では、全国各地で顔つきが異なるだるまが作られています。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

だるまは、紙から作られるものが多いのですが、美術館では木製のだるま（写真右上の左）やだるまの根付（写真右下）が展示されているのを見たことがあります。丸い愛らしい姿をした縁起の良いだるまは、古くから日本人に愛されてきたことがわかります。だるまにお願いした願い事が実現して、人々に多くの福が訪れることを願います。

